

オリジナル・パテント・アプライド・フォーの完全な復活



50年代後期のサンバースト・レスポールをはじめとする数々の名器に搭載され、それ自体が一つの楽器であるとも言われるオリジナルのバサント・アプライド・フォーピックアップ。古今の著名ギタリスト達にこよなく愛されてきたそのトーンは、経年変化や製作時の条件のばらつき等によって様々なキャラクターを持ち、同じ音質のものがないとすら言われる伝説的存在である。

そもそもピックアップというものは振動を電気(交流)信号に変え、アンプで増幅できるようにすることにある。しかし、同時にその構造という点から見てみると、抵抗、インダクター、コンデンサーの性質をもあわせ持っている。この三要素を持つという事はピックアップが同時にトーン・フィルターである事を意味する。つまり、ピックアップした交流信号に対して自身がその倍音構成の決定権をも握っているわけだ。いろいろな種類のピックアップが持つこのトーンを持つのはこの理由による。

しかし、この3つの要素は製造時の種々の条件の変化によって大きく影響を受ける。例えばコイルの巻テンション、ターン数等のばらつきは直流抵抗や線間容量、インダクタンスのばらつきとなってあらわれる。

これ以外にもピックアップのトーンに大きく影響する要素にマグネットがある。その経年変化による強弱のばらつきは、ピックアップの感度/アウトプットばかりでなく強振動そのものにも物理的に影響を与え、倍音構成を複雑にしている。

多数のオリジナル・パテント・アプライド・フォーピックアップを研究して判った事は、50年代の開発当時想定された基本的な設計デザインに、製造時および製造後の条件の変化によるこうした不確定要素がからみあって総合的にそのトーンを創り出している事であった。

逆に言えば、パテント・アプライド・フォーのトーン復活にはこうした偶然の産物とも思える不確定要素を分析し、それを高い精度でコントロールしながら再現する事が必須の条件となるわけだ。

ところがこうしたファクターのほとんどが、再現時にコントロールの非常に難しい微妙なもので、多くの研究者にとつてそのトーンを現代に再現する上での大きな障害となっていたのである。事実、

数多くのレプリカピックアップが追いつけながらも今一つオリジナルのトーンに辿り着けないのはこの理由からだった。

ギブソン・カスタム・ショップでは、エレクトリックギターにおける最高のトーンを生み出すバサント・アプライド・フォーピックアップを完全な形で復元するため長年にわたって研究を続けてきたが、今、この障害を乗り越えて現存するピックアップの頂点といえる究極のビンテージハムバッカーを創り上げた。それがバーストバックカーである。

バーストバックカーはその名が示すとおり、58、59、60年に生産されたレスポール・サンバーストに搭載されたオリジナル・パテント・アプライド・フォーピックアップを忠実に復元したものである。復元にあたっては特に微妙なトーン・ニュアンスを重視した。タイトなボトム、きらめくハイにミッドレンジのメロウさをバランス良くミックスしたそのサウンドは、まさにビンテージトーンの真の復活、と言えるだろう。

このバーストバックカーには他のピックアップには無いユニークな点も一つある。それは音質によってタイプが

三つに分かれている点だ。前述のように、オリジナルには多くの不確定要素があり、それが個性差となっているようなトーンのバサント・アプライド・フォーピックアップが存在する。従来のアプローチはすべてのバサント・アプライド・フォーのトーンレンジを一つのタイプだけで平均的にカバーしようとするやり方だった。このやり方は決して間違っていない。しかしバーストバックカーの開発にあたっては、微妙なトーン・ニュアンスの再現のためにまったく違ったアプローチがとられた。オリジナルのトーンバリエーションの中でも特に評価の高い典型的な3種類を選び、それぞれを一つ一つの独立したタイプのピックアップとしたのである。

この事によって、ユーザーはより自分の好みにあったオリジナル・トーンを選ぶ事が出来る。さらにそればかりでなく、タイプごとの微妙なアウトプットの違いを生かして、現在では常識とも言えるフロント、リアのアウトプットのバランスを自然な形でとる事が出来る。2ピックアップのギタリーでは、この権限にしてこの3タイプのピックアップから6種類のバランスのとれたマッチング・コンビネーションが得られる事になる。

バーストバックカー モデル別仕様

**タイプ1
[クリーン]**

コイルのターン数はやや控え目でアウトプットはおさえ気味。クリーンさ、はげれの良さ、繊細さを重視したタイプ。音の粒だちがはっきりとしてジャズやブルース向きともいえるが、アンプ側で歪ませればメリハリのあるロックトーンにもなる。フロント・ポジションには特に向いている。

**タイプ2
[ウォーム]**

最も標準的なスペック。最も多くのパテント・アプライド・フォーピックアップに見られる直流抵抗8.0KΩ前後のタイプ。アタッキーでありながらメロウなトーン。ポジションを選ばないオールマイティなタイプ。

**タイプ3
[ウォーマー]**

オリジナル・パテント・アプライド・フォーのなかでもレアな、特にコイルのターン数の多いタイプ。高めのアウトプットで固太いトーンを持つのでロック系に強い。リアポジションでその真価を発揮する。



当時と同じ精製で作りに上げられたアルニコマグネットを使用しています。



全てのバーストバックカーには「PATENT APPLIED FOR」デカールが貼られています。



当時のサウンドを生み出す為、あえてワックス音落はしていません。

※製品のカラーは撮影状況、撮影フィルムおよび印刷の特製上、現物と多少違う場合があります。
※本カタログ掲載の製品は1998年12月現在のものです。なお製品は予告なく仕様変更、もしくは生産終了となる場合があります。あらかじめご了承下さい。
※正規輸入GIBSON USA製品には、保証書および火災・盗難等保険登録用のご愛用者カードを添付しております。ご購入の際は必ずご確認ください。
※カタログ掲載の写真等の無断転載を禁じます。

GIBSON AGENT